

看護の統合と実践

【科目構成とねらい】

「看護の統合と実践」は、看護職を目指すものとしての自覚をもち、在学中だけでなく卒業後も自己研鑽に努め、常に新たな知識・技術を身に付けるための基礎的能力を養うための科目である。

そのために、これまで学習した内容をより臨地での実践に近い形で学習することとし、知識・技術を統合する内容とする。卒業後、臨地での現場にスムーズに適応していけるように、実践的に学習する。

具体的には、専門職としてのキャリア形成について早い時期から自律的に取り組むことができるようになること、そして、組織における看護師の役割を理解するとともに、チーム医療及び多職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する、看護管理、医療安全の基礎的知識を修得する、災害発生直後から継続して支援できる看護の基礎的知識について理解する、国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができる、等の看護実践力を高めるための内容について学習する。また、さらにそれぞれの地域特性について知見を深め、東京都及び各地域に貢献しうる看護師としての学びを深める。

「看護マネジメントとキャリア論」

この科目では生涯にわたり学びつづけるための基礎的な知識と態度を養う。看護の基礎教育では、チームの一員としての看護師の役割を理解し、行動できることが求められる。専門職として自ら成長するために必要な知識を学びながら「考える力」「構成する力」を養う。

看護マネジメントとキャリア論Ⅰでは、社会に期待される看護職になるために自己のキャリアについて考え、自己の考えを他者に論理的に伝えられる力を養う。

看護マネジメントとキャリア論Ⅱでは病院や施設における組織について学び、病院や看護の理念に基づき、患者満足と従業員満足を高める環境づくりの考え方や、“看護サービスの管理”について理解を深める学習をする。また、チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働について学ぶとともに、看護師が、医療チームの一員としてのマネジメント、業務遂行のためのマネジメント、看護師自身のマネジメントができるような内容で学習する。医療・看護がめざすべき姿を常に考え、自身の看護を振り返る習慣を身に付けることで強化していく。また専門看護師、認定看護師といったより専門性の高い看護職の役割などを学ぶことで、生涯学び続ける態度を養う。

「医療安全と看護」

医療・看護におけるアクシデントでは、患者の生命に直接影響する薬物に関することが多い。そのため、診療補助技術として、臨床の場で求められる一定水準の注射技術等を安全で確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。医療安全の基礎的な考え方を理解するとともに、安全な医療の提供のための医療機器の安全な取り扱いや、医療システムの中での安全を図るための、実践的な演習を行い学習する。

「災害看護・国際看護」

近年、地球温暖化に伴う気候変動などの影響もあり、洪水や土砂災害など災害の発生頻度や規模が拡大し、被害も増大傾向にある。そのため、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、役割を発揮していくことが求められている。「災害看護」では、災害時におけるチーム医療の中での看護師の役割を理解

し、災害発生から災害サイクル各過程での救護活動および健康を守るための生活支援に必要なスキルを学ぶ。また、演習を通し、都内で起こりうる災害とその救護活動の実際について理解を深める。

「国際看護」では、まず世界の健康問題の現状や課題を、演習を通し把握する。そのうえで、国・地域・民族による生活習慣、保健行動の多様性を理解し、看護の国際貢献についての基礎的な理解を深めるための学習をする。

「臨床看護の実践」

医療技術の高度化が進む中、看護に求められる診療補助技術も高度化している。高度医療を受ける患者は、ハイリスク下にあり、その看護を実践する看護師の業務は、複雑で多岐にわたることが多く、その時々で臨床判断を求められる。そのため、専門基礎分野で学んだ内容や専門分野で学んだ各看護学の内容をもとに、看護実践を段階的に学ぶ内容とする。しかし、臨床のようなハイリスク環境下での学習には限界がある。新人看護師が基礎教育とのギャップで離職している状況も少なくないため、基礎教育期間に、ハイリスク環境下における看護がイメージでき、研鑽できることが望ましい。そこで、臨床の場で求められる注射技術や採血技術等を安全に、かつ確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。さらに、複数患者への援助を実施する上で、総合的な状況判断や対応の基本を学ぶための学習をする。

「地域特性と看護」

感染を未然に防ぐ知識と技術は、地域・在宅から高度専門医療機関まであらゆる看護の領域において重要な課題である。

看護基礎教育において、看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標として、ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力の一つに、安全なケア環境の確保のために感染防止の目的と根拠を理解し、適切な方法で実施するという項目が示されている。しかし、教育方法に関する研究においては、感染防止対策の実施は個人の判断に準拠し、実施しなくても直接的な評価が得られない自律的な行動であることが影響する。¹⁾土橋らによれば、標準予防策において、知識得点と実践得点は関連がないが、態度は実践に結び付く重要な因子であると述べている。つまり、「感染防止対策をどれだけ重要と思えるか」という前向きな態度を形成することが感染の標準予防策には重要であるとしている。したがって、統合科目の「医療安全と看護Ⅰ」で教授している感染予防に関する学習を基盤とし、感染予防対策の理解や判断力の向上、技術習得の学修内容に加え、感染症の動向、医療現場における感染管理の実際、感染予防を実践していくための態度の涵養など統合的な能力の育成を図ることが必要である。

また本校は、ヒト・モノが国境を越えて往来する羽田空港が同区内にある環境であることや、第1種及び第2種感染症指定医療機関として指定を受けており主たる実習施設となっている荏原病院に隣接し卒後に就職する学生も多い等の理由から、感染予防の対策についてより一層確実な知識・技術・態度を身に付けていく必要がある。

【目的】

看護に求められる社会的ニーズを理解し、個人と集団と社会に対し、適切な看護を提供できるよう、既習学習の知識と技術を統合して、実践できる能力を養う。

【目標】

1. 組織の中での看護師の役割を理解し、看護マネジメントの基礎的知識を習得する。

2. 災害医療・災害看護についての基礎的知識を習得する。
3. 国際社会での諸外国との協力について考える。
4. 安全な医療の提供に向けて、対象に合わせた適切な診療の補助技術を習得する。
5. 複合課題を通して、知識・技術の統合と総合的な判断を学び、臨床実践能力を養う。
6. 将来の自身のキャリア像を描き、看護の質向上を目指し、自己研鑽する態度を養う。
7. 各地域の特性について知見を深める。

【構成および計画】

<講義>

科目	単位数	時期		
		1年	2年	3年
看護マネジメントとキャリア論Ⅰ	1	○		
看護マネジメントとキャリア論Ⅱ	1			○
医療安全と看護Ⅰ	1	○		
医療安全と看護Ⅱ	1		○	
災害看護・国際看護	1			○
臨床看護の実践	1			○
地域特性と看護 「感染予防に向けての看護」	1		○	

授業計画

科目名	看護マネジメントとキャリア論 I		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 社会に期待される看護職になるために将来の自己のキャリアについて考える。 2. 自己の考えを他者に論理的に伝えられる。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	都立看学で発展させたい4つの力とカリキュラム	教育課程 (ガイダンス)	講義	専任教員 *		
第 2 回	看護職にとってのキャリア	生涯学習の必要性 キャリアの考え方 看護師としての成長 (ベナーのモデル)	講義	専任教員 *		
第 3 回	看護職の専門性	専門職性 (プロフェッショナリズム) とプロフェッションフッド 継続教育と生涯学習	講義	専任教員 *		
第 4 回		看護師が直面する壁 ライフイベントとキャリア 離職の原因と対応策、職場での対策 (文献学習)	演習	専任教員 *		
第 5 回		看護師を継続していくためのキャリアプラン発表	演習	専任教員 *		
第 6 回	目指したい看護	実際に仕事をしている先輩看護師へのインタビュー等 ライフイベントとキャリア 看護職としての経験とキャリア	演習	専任教員 *		
第 7 回		私が目指したい看護師像の明文化	演習	専任教員 *		
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書	なし		評価 方法	レポート		
備考						

授業計画

科目名	看護マネジメントとキャリア論Ⅱ		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	1. 看護管理についての基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解する。 2. 看護の専門性を磨き、看護という職業世界で自己を成長させる方法を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	医療における看護管理	看護部門の組織構造と看護プロセス 看護管理	講義	外部講師* (看護管理者)		
第 2 回	組織の中の看護	組織としての看護 看護業務基準・手順	講義	外部講師* (看護管理者)		
第 3 回	組織とマネジメント	組織とマネジメント リーダーシップとメンバーシップ チーム医療と多職種との協働	講義	外部講師* (看護管理者)		
第 4 回	看護の質向上	看護サービス管理 入院基本料・看護必要度 看護の質の評価 医療・看護の質改善に向けた取り組み	講義	外部講師* (看護管理者)		
第 5 回	看護職の健康管理	働きやすい職場環境 組織の健康管理と看護者自身の健康管理 ワークライフバランスと看護	講義	外部講師* (看護管理者)		
第 6 回	医療の高度化と人材育成	新人看護師研修制度とキャリアラダー ジェネラリストとスペシャリスト 専門看護師・認定看護師・認定管理者・特定行為に係る看護師の研修制度	講義	外部講師* (看護管理者)		
第 7 回	自己のキャリアプラン	看護専門職としての将来設計と自己研鑽	演習	専任教員*		
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記 レポート		
備考						

授業計画

科目名	医療安全と看護 I		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 医療安全についての基礎的知識を習得する。 2. 感染予防の必要性と方法について基礎知識を習得する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	医療安全の確保	医療における安全の重要性 安全の意義 看護の対象者の特徴 ヒューマンエラー 安全における看護の役割 医療機関における医療安全対策	講義	専任教員*		
第 2 回	安全な医療環境	安全を守るための基本 転倒・転落防止 療養環境における危険防止	講義 演習	専任教員*		
第 3 回		個人情報管理 事故事例の収集と分析				
第 4 回		感染成立の条件 生体の防御機構（自然免疫・獲得免疫） 感染源、感染経路、宿主 標準予防策（スタンダードプリコーション）				
第 5 回		感染経路別対策 洗浄・消毒・滅菌 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い	講義	専任教員*		
第 6 回	感染予防の実際	衛生的手洗い	校内 実習	専任教員*		
第 7 回		無菌操作 個人防護具の着脱 滅菌手袋の装着	校内 実習	専任教員*		
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書	系統看護学講座専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座専門分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院			評価 方法	筆記	
備考						

授業計画

科目名	医療安全と看護Ⅱ		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 安全な医療の提供のため医療機器の適切な取り扱いを習得する 2. 臨地実習における事故防止と安全管理を学ぶ					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	チューブ・ライ ンの安全な管理	医療安全 医療事故発生のメカニズム チューブ・ラインの種類と挿入目的 チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況 と対策 ・外れ ・閉塞 ・抜去 ・切断 ・不適切な圧力 チューブ・ラインを挿入している人の事故防止	講義	専任教員*		
第 2 回		チューブ・ドレーンを挿入している人の事故防 止の実際	校内 実習	専任教員*		
第 3 回	輸液ポンプ・シ リンジポンプの 安全な取り扱い	輸液ポンプ・シリンジポンプを使用している人 の看護	講義	専任教員*		
第 4 回		安全で確実な注射業務の実施方法 注射業務実施中のトラブルと対処方法	校内 実習	専任教員*		
第 5 回		輸液ポンプ・シリンジポンプの正しい取り扱い 輸液セット・三方活栓の接続 三方活栓の取り扱い 輸液ポンプ・シリンジポンプの設定 ポンプ使用時の事故防止 ・フリーフロー ・サイフォニング現象 輸液ポンプ・シリンジポンプのアラームの対処 方法	校内 実習	専任教員*		
第 6 回	看護学生の実習 における安全	実習における事故の法的責任と補償 実習中の事故予防及び事故発生時の対応 習得すべき看護技術のリスクと安全 実習中における安全についての指導者の役割 予防と事故発生時の対応	講義	専任教員*		
第 7 回		実習中に発生した事故事例の分析	演習	専任教員*		
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記		
備考						

授業計画

科目名	災害看護・国際看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	3 年次
科目 目標	1. 災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を習得する。 2. 国際看護に関する基礎的知識を習得する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	災害看護の理解	災害の種類と被害の特徴 災害時の支援体制、医療体制 災害対応にかかる職員間・組織間連携	講義	外部講師* (看護師)		
第 2 回	災害看護の基礎	災害看護の特徴と看護の役割 災害医療対応の基本：CSCATTT 災害と法制度	講義	外部講師* (看護師)		
第 3 回	災害サイクルに 応じた看護	災害各期の看護 超急性期・急性期・亜急性期の看護	講義	外部講師* (看護師)		
第 4 回	災害看護の実際	トリアージと搬送、応急処置 (含包帯法)	校内 実習	外部講師* (看護師)		
第 5 回			校内 実習			
第 6 回	災害サイクルに 応じた看護	災害各期の看護 慢性期・復興期・静穏期の看護 被災者の心理とこころのケア 支援者のメンタルヘルス	講義	外部講師* (看護師)		
第 7 回 第 8 回	居住地の災害対 策	居住地のハザードマップ 居住者の特徴 居住地の災害対策と救護活動	講義 演習	専任教員*		
第 9 回	世界の健康問題 と国際看護	世界の健康の社会的決定要因 ・貧困 ・水と保健衛生 ・感染症 ・教育	講義 演習	外部講師 (看護師)		
第 10 回	国際看護	国際看護の歴史 国際看護の基本理念 国際看護の対象 ・災害・紛争地域 ・開発途上国に住む人々 ・在留外国人 ・在外日本人 ・帰国日本人	講義	外部講師 (看護師)		
第 11 回	国際協力	国際協力のしくみ 日本国内の国際化	講義	外部講師 (看護師)		
第 12 回	異文化理解と看 護活動	文化的存在としての人間の理解 文化を考慮した看護 在留外国人への看護実践	講義	外部講師 (看護師)		
第 13 回	国際看護活動の 実際	開発途上国における看護の実際 ・貧困 ・水と保健衛生 ・子供と女性・感染症	講義	外部講師 (看護師)		
第 14 回		国際救援における看護の実際 ・災害における救援 ・難民救済 これからの国際協力の課題	講義	外部講師 (看護師)		
第 15 回	評価		試験	外部講師* 専任教員*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院		評価 方法	筆記 レポート		
備考						

授業計画

科目名	臨床看護の実践		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	3 年次
科目 目標	1. 医療システムの中での安全を図り、診療の補助技術における事故防止のための知識・技術を習得する 2. 実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理観を養う 3. 複数患者への援助を通して、総合的な状況判断や対応の基本を習得する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	診療の補助技術における事故防止	看護業務の特徴と看護事故の構造 注射・輸血における事故事例と事故防止 注射業務・輸血業務と事故防止 ・危険な薬剤 内服及び処置検査における事故事例と事故防止 内服与薬業務と事故防止 経管栄養業務と事故防止 検査に伴う事故防止	講義 演習	専任教員*		
第 2 回	ハイリスク状況における事故防止	ハイリスク状況下での事故防止 タイムプレッシャーと業務の中断 ハイリスク状況下での注射業務の実施	講義	専任教員*		
第 3 回 第 4 回	ハイリスク状況における事故防止の実際	注射処方箋の読み取り・指示確認 ハイリスク状況での注射薬の準備と管理 患者の立場での自己の行動の振り返り	校内 実習	専任教員*		
第 5 回	安全で確実な採血	採血技術 採血部位の選択 採血時のリスクと合併症 医療廃棄物の取り扱いの実際 針刺し事故防止と事故発生時の対処	講義	専任教員*		
第 6 回 第 7 回		採血の実際（学生同士で実施）	校内 実習	専任教員*		
第 8 回	臨床における看護実践の特徴	臨床看護実践の特徴 他者との連絡・調整 複数の課題に対する優先順位の決定 流動的環境における判断 援助の優先順位を踏まえた二人の患者の援助計画 リスクアセスメント 日常生活の援助・診療の補助技術 一日の患者のスケジュール 二人の患者の情報収集と状況判断	講義	専任教員*		
第 9 回	複数患者の看護実践と状況への対応	二人の患者への援助計画 安全・安楽の確保 自立度に合わせた援助の実施 援助の効率性 タイムマネジメント 自己の実践能力に応じた対処方法決定 チームメンバーとの連携	演習	専任教員*		
第 10 回 第 11 回		二人の患者への援助の実施 患者の状態に合った援助 優先順位を考えた行動・段取り	校内 実習	専任教員*		
第 12 回	多重課題への対処	予期しない事態への対応	講義	専任教員*		
第 13 回 第 14 回		多重課題 予期しない患者の反応 突発的な事態 時間の切迫 I-SBAR での報告 評価・修正	校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価					

テキスト 参考図書	系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			評価 方法	筆記
備考					

授業計画

科目名	地域特性と看護「感染予防に向けての看護」		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 感染症の動向及び今日的感染予防対策や、医療福祉施設内の感染管理について理解できる。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	感染症の動向 と対策	1.感染症の動向 2.新興感染症と再興感染症に対する対応について 1) 大田区における現状と対策	講義	外部講師		
第 2 回		2) 検疫所における水際対策 (1)検疫所の役割 (2)検疫業務の実際	講義	外部講師		
第 3 回	看護実践場面 での感染予防 行動	1. 医療施設における感染症対策	講義	外部講師 ※感染管理 認定看護師 専任教員		
第 4 回		2. 施設内での感染予防行動の実際 1) 防護具、N95 マスクの装着体験 2) ゴーニング	演習			
第 5 回		3) 感染予防対策下でのコミュニケーション 4) 看護ケア場面での感染予防行動の実践 例) おむつ交換、吸引、	GW 演習			
第 6 回		中心静脈ライン等の交換など	発表			
第 7 回	医療従事者・ 患者家族のメンタルヘルス ケア	1. 感染症対応下における患者(家族)、医療 従事者のメンタルヘルケアについて	講義 演習	外部講師 臨床心理士		
第 8 回	評価					
テキスト 参考図書	基礎から学ぶ医療関連感染対策 南江堂 感染対策チェックテスト 100 ポケット版 洪愛子 日本看護 協会出版 日本看護協会 ホームページ		評価 方法	筆記 レポート		
備考						